

事業内容

I 診療部

1 各診療科

(1) 整形外科

脳性麻痺、二分脊椎など障害児の肢体不自由や変形などの改善を目的に、リハビリテーション、装具療法等を行っているほか、必要に応じて、入所後に手術治療なども行っている。

また、四肢の痙性の強い患者に対してはボツリヌス注射治療も施行しているほか、発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）、内反足、O脚、側弯症などの小児整形外科疾患に対するギプス、装具、牽引、手術などの治療も専門としている。

さらに、骨系統疾患児や下肢長差の認められる患者には脚延長術も行っている。

(2) 小児科

一般病院の小児科とは異なり、小児期発症の神経疾患を専門としている。

初診年齢は0歳～18歳だが、状況により18歳を過ぎたケースにも対応している。

入所施設機能に加え、母子訓練入院、検査や治療目的の入院も行っており、特に、難治性てんかん患者への内科的治療に取り組んでいる。

また、人工呼吸器管理を含めた重度障害への対応を充実させ、在宅支援を積極的に行っている。

(3) 小児科メンタルヘルス

子どものこころ専門医が、子どもの行動発達の問題と心身症の専門外来を行っている。

初診年齢は中学生までとしている。

継続する場合はおおむね高校1年生までとし、その後医療が必要な場合は大人の科へ紹介する方針としている。

(4) 精神科こころのケア

精神科専門医が、子どもの心の問題について「こころのケア外来」という名称で診療および相談を行っている。

初診は原則として中学生までで、対象となるのは①知的障害を含む発達障害 ②発達障害を背景にした精神症状 ③発達障害以外の子どもの精神障害 の3分野である。なお、①②については入所者の往診も行っている。

(5) 歯科

むし歯を生じさせないためには、良好な食習慣とハミガキやうがいを始めとした口腔衛生の維持が大切であり、様々な病気を持った子どもの口と歯の健康を、歯科医師と歯科衛生士が保護者の方と一緒に取り組み、口腔育成の視点からの診療を行っている。

治療が困難な子どもの場合には、静脈内鎮静法や全身麻酔を併用した歯科治療を行うが、通常の歯科治療が可能と思われる場合は、他の医療機関の受診を勧めている。

(6) リハビリテーション科

専門スタッフによる理学療法・作業療法・言語聴覚療法を行っている。各療法とも発達の遅れや障害のある方に対して適切な評価を行い、個々の特性に合わせた治療方針に基づいたリハビリテーションや支援を提供している。

(7) 耳鼻咽喉科

主に小児を対象として耳・鼻・のどの病気を診察・治療している。また、自宅での耳そうじが困難な小児に対しての耳垢除去も行っている。特に難聴に対する検査では脳波を検出する方法により0歳児から診断が可能となっている。

(8) 眼科

屈折異常(近視、遠視、乱視)、弱視、斜視、緑内障、白内障、先天異常、眼科手術後の経過観察、その他小児眼科全般の診療および治療に関する相談のほか、眼鏡処方や弱視治療も行っている。検査や診察が困難な子どもにも時間をかけて対応できるよう予約制としている。

(9) 常勤診療科医師(令和3年3月)

診療科	氏名	卒業年	専門医など
整形外科	遠藤 博之	昭和36年	リハビリテーション認定臨床医
整形外科	坂本 仁	昭和62年	
整形外科	三澤 晶子	平成7年	整形外科専門医、リハビリテーション認定臨床医
整形外科	五十嵐 駿	平成28年	
小児科	澤石 由記夫	昭和60年	小児科専門医、小児神経専門医、てんかん専門医指導医、臨床遺伝専門医
小児科	渡部 泰弘	平成5年	小児科専門医、こどものこころ専門医
小児科	豊野 美幸	平成5年	小児科専門医、小児神経専門医
小児科	田村 千夏	平成20年	小児科専門医
精神科	室岡 守	平成5年	日本精神神経学会精神科専門医、精神保健指定医
歯科	本間 高志	平成20年	

(10) 外来診察担当表 (令和3年3月)

診察室番号		診療科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2	午前	小児科	澤石	澤石	豊野	澤石	澤石
	午後	小児科		澤石		澤石	
3	午前	小児科	平山	平山		平山	豊野
	午後	小児科	豊野	豊野	稲見		豊野
4	午前	整形外科	三澤		三澤	三澤	三澤*1
	午後	整形外科			三澤	三澤	
5	午前	整形外科	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本*2
	午後	整形外科		坂本			
	午前	泌尿器科					神田*3
7	午前	眼科					羅*4
	午後	耳鼻咽喉科					秋田大学 担当医師
	午後	小児外科				森井*5 渡部*5	
	午後	小児科 (腎臓)			土田*6		
8	午前	歯科	本間 五十嵐	本間	本間 高野	本間	本間 高橋
	午後	歯科	本間 五十嵐	本間	本間 高野	本間	本間 高橋
9	午前	小児科 メンタルヘルス	渡部	渡部*7		渡部	渡部
	午後	小児科 メンタルヘルス	渡部		渡部	渡部	渡部
	午前	小児科 (心臓)		豊野*8			
10	午前	精神科 こころのケア	室岡	室岡	室岡		室岡
	午後	精神科 こころのケア	室岡	室岡		室岡	室岡

(注) 表中の空欄は休診日、*印の外来診療日は以下のとおり。

*1: 第1・2・5金曜日

*2: 第3・4金曜日

*3: 第2金曜日

*4: 第1・3・5金曜日

*5: 第1・3木曜日(森井)

第2・4・5木曜日(渡部)

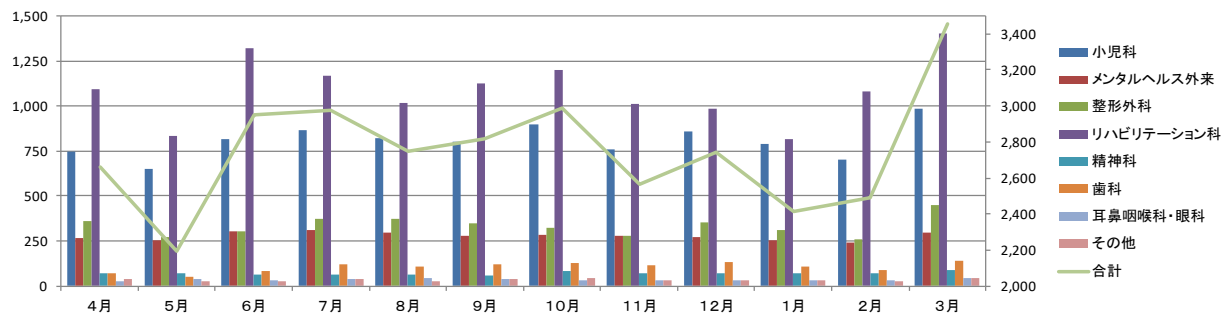
*6: (奇数月)第2水曜日

*7: 第1・3火曜日

*8: 第4火曜日

(11) 令和2年度の実績

① 診療別外来受診者数

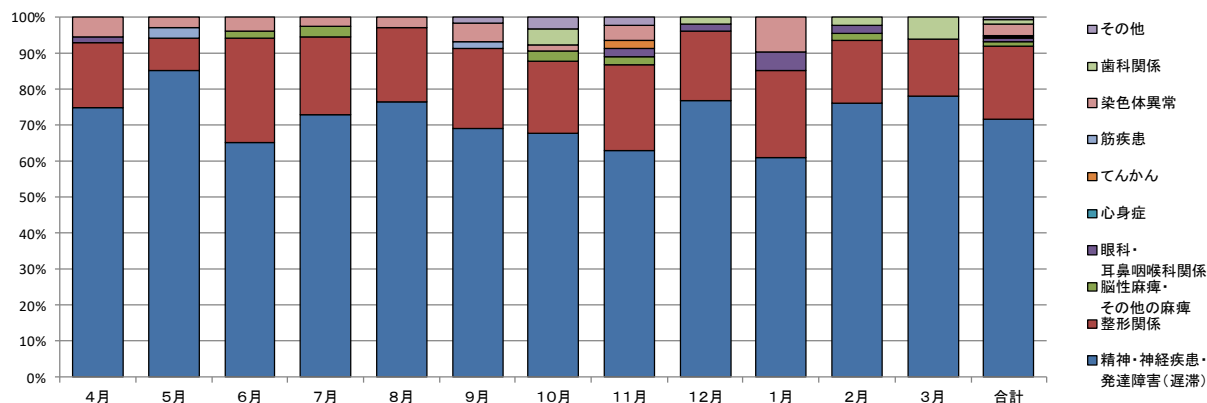


	(人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小児科	744	653	814	863	819	802	900	756	862	792	701	987	9,693
メンタルヘルス外来	267	253	304	309	294	281	282	276	272	255	240	300	3,333
整形外科	359	269	304	372	376	350	321	278	357	312	257	448	4,003
リハビリテーション科	1,092	835	1,322	1,168	1,019	1,123	1,200	1,008	985	816	1,080	1,404	13,052
精神科	67	67	66	66	64	58	84	68	70	71	69	89	839
歯科	67	49	83	121	106	123	128	113	133	106	87	139	1,255
耳鼻咽喉科・眼科	24	39	29	41	44	41	31	33	33	32	30	43	420
その他	38	28	27	36	25	41	44	34	33	31	26	43	406
合計	2,658	2,193	2,949	2,976	2,747	2,819	2,990	2,566	2,745	2,415	2,490	3,453	33,001
前月比 (%)		82.5	134.5	100.9	92.3	102.6	106.1	85.8	107.0	88.0	103.1	138.7	

② 外来新患内訳数

	(人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神・神経疾患・発達障害(遅滞)	42	29	34	27	26	40	44	29	40	25	35	25	396
整形関係	10	3	15	8	7	13	13	11	10	10	8	5	113
脳性麻痺・その他の麻痺			1	1			2	1			1		6
眼科・耳鼻咽喉科関係	1							1	1	2	1		6
心身症													0
てんかん								1					1
筋疾患		1				1							2
染色体異常	3	1	2	1	1	3	1	2		4			18
歯科関係							3		1		1	2	7
その他						1	2	1					4
合計	56	34	52	37	34	58	65	46	52	41	46	32	553
前月比 (%)		60.7	152.9	71.2	91.9	170.6	112.1	70.8	113.0	78.8	112.2	69.6	

③ 外来新患内訳比率



	(%)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神・神経疾患・発達障害(遅滞)	75.0	85.3	65.4	73.0	76.5	69.0	67.7	63.0	76.9	61.0	76.1	78.1	71.6
整形関係	17.9	8.8	28.8	21.6	20.6	22.4	20.0	23.9	19.2	24.4	17.4	15.6	20.4
脳性麻痺・その他の麻痺	0.0	0.0	1.9	2.7	0.0	0.0	3.1	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0	1.1
眼科・耳鼻咽喉科関係	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	1.9	4.9	2.2	0.0	1.1
心身症	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
てんかん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
筋疾患	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
染色体異常	5.4	2.9	3.8	2.7	2.9	5.2	1.5	4.3	0.0	9.8	0.0	0.0	3.3
歯科関係	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	1.9	0.0	2.2	6.3	1.3
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	3.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

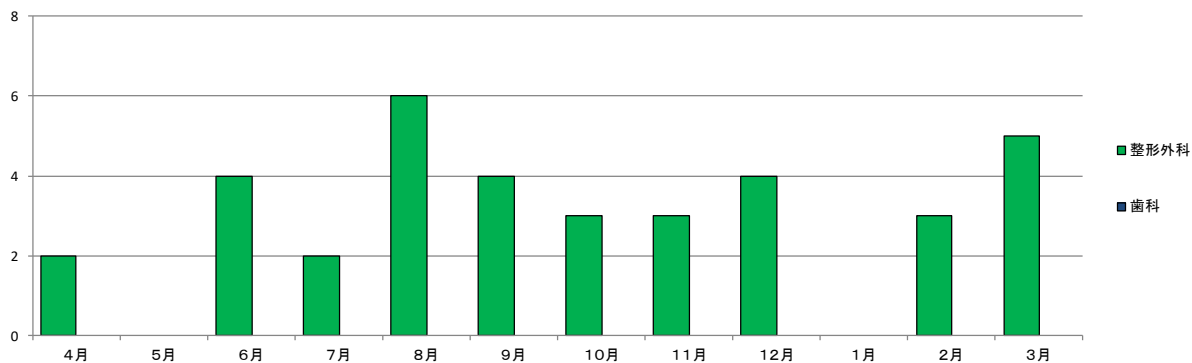
④ ボトックス施注数

	(人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施注人数	29	19	15	31	24	22	13	27	26	21	12	28	267

⑤ 補装具処方数

	(枚)
股装具	3
膝装具	8
短下肢装具	82
靴型装具	4
リハビリシューズ	5
足底装具	21
頸椎装具	1
腰椎装具	3
側弯矯正装具	27
上肢装具	6
車いす	57
歩行器	10
座位保持装置	24
その他	33
計	284

⑥ 手術件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	2		4	2	6	4	3	3	4		3	5	36
歯科													0

⑦ 整形外科疾患別手術件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳性麻痺			3	1	1	2	1		3		1	1	13
二分脊椎	2												2
筋疾患													0
神経疾患													0
先股脱					1							1	2
筋性斜頸													0
内反足								1			1	1	3
その他			1	1	4	2	2	2	1		1	2	16
合計	2	0	4	2	6	4	3	3	4	0	3	5	36

⑧ 整形外科手術別件数

手術名	件数
股関節周囲筋解離術	20
膝関節周囲筋解離術	14
足関節周囲筋解離術	43
骨切り術（骨盤、大腿、下腿）	3
足部骨・関節手術	12
斜頸手術	1
内反足手術	4
その他（脚延長、抜釘など）	46
合計	143

⑨ 歯科治療件数

	件数
全身麻酔下	0
静脈内鎮静法下	1
モニター監視下	1
埋伏歯抜歯	1
合計	3

※延べ件数

2 リハビリテーション部門

令和2年度は、理学療法士10名（非常勤含む）、作業療法士9名、言語聴覚士4名で業務に当たっている。

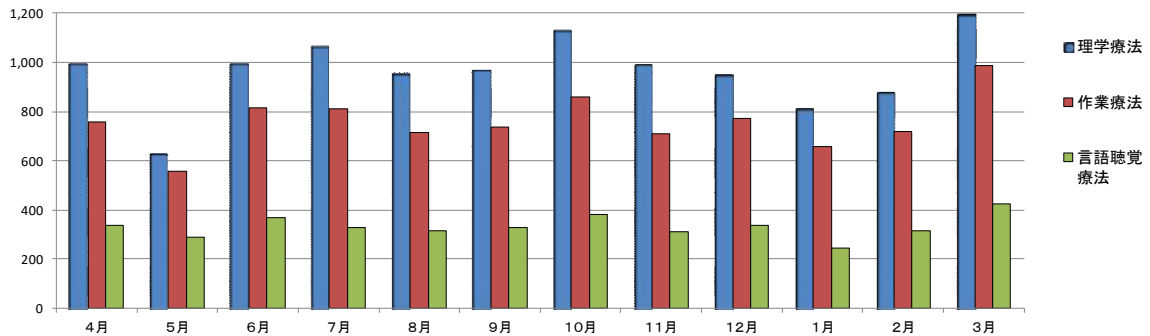
理学療法室は面積が256㎡あり、重心動揺・足圧分布測定器、筋力測定器、三次元動作解析装置、床反力計などの客観的評価機器、電動昇降式マットプラットホームや懸垂歩行訓練が可能なトレッドミルなどの訓練機器、また、ブランコや滑り台、その他遊具を多数揃えている。

作業療法室は133㎡、さらに、感覚統合療法室50㎡、日常生活動作訓練室22㎡があり、種々の評価・訓練が可能な機器を揃えている。

言語聴覚療法室は24㎡が1室、またどの職種でも使える個室18㎡を7室用意しており、各種言語学習教材、認知機能向上用教材、コミュニケーション補助機器などを揃えている。

(1) 令和2年度の実績

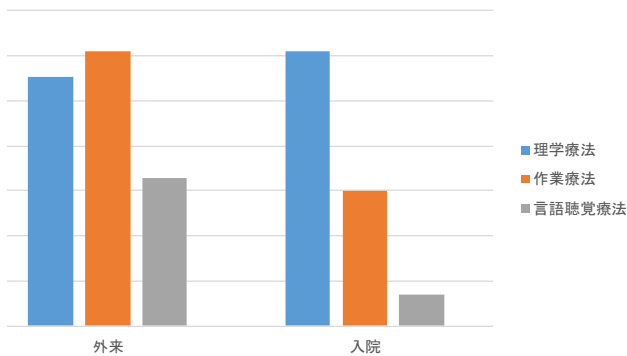
① 各療法の月別件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	999	638	1,001	1,069	954	973	1,134	995	953	817	881	1,196	11,610
作業療法	759	556	816	810	715	736	861	709	773	656	721	985	9,097
言語聴覚療法	338	291	367	331	314	327	380	310	337	246	314	425	3,980
合計	2,096	1,485	2,184	2,210	1,983	2,036	2,375	2,014	2,063	1,719	1,916	2,606	24,687

※実施人数は延人数である。

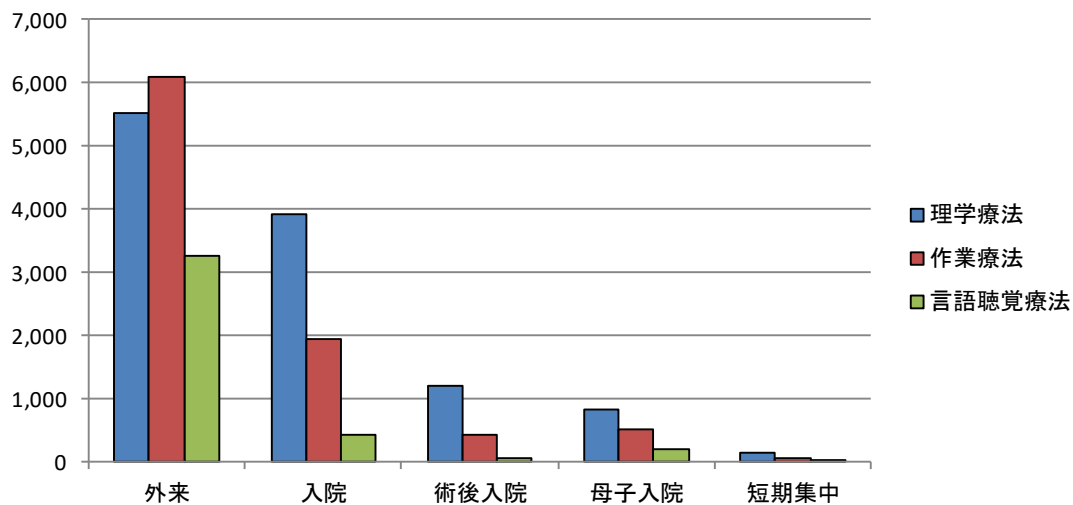
② 令和2年度 各療法の入院・外来件数



	外来	入院	合計
理学療法	5,524	6,086	11,610
作業療法	6,104	2,993	9,097
言語聴覚療法	3,275	705	3,980
合計	14,903	9,784	24,687

※合計は実施した件数であり、医師が指示した件数であるI診療部(11)の①診療別外来受診者数とは一致しない。

③ 利用形態別件数



(件)

	外来	入院	術後入院	母子入院	短期集中	合計
理学療法	5,524	3,918	1,197	841	130	11,610
作業療法	6,104	1,949	442	530	72	9,097
言語聴覚療法	3,275	433	53	210	9	3,980
合計	14,903	6,300	1,692	1,581	211	24,687

- ※ 外 来：一般外来（乳幼児通園を利用している者を含む）
 入 院：一般入院、契約入所、措置入所
 術後入院：整形外科で手術を受け入院している者
 母子入院：母子入院している者
 短期集中：訓練を集中して受けるため短期間入院している者

3 薬剤部門

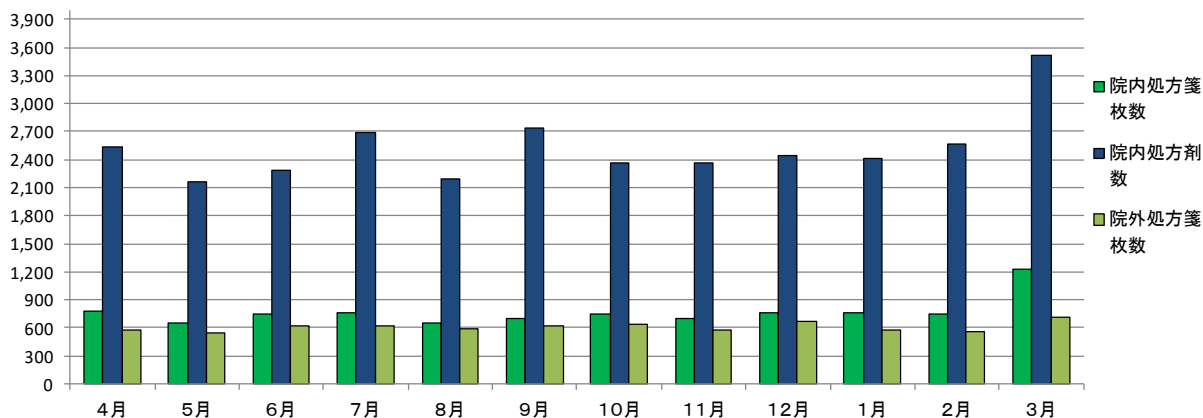
主に調剤・鑑査業務や病棟・外来・手術室の医薬品管理業務、医薬品情報管理業務、電子カルテの医薬品整備を行っている。また調剤時は電子カルテと連動したシステムを使用することで、用量や処方薬間の相互作用、重複投与の確認を行い、インシデントを防止している。その他、採用医薬品集の整備や後発医薬品への変更を推進することで、医療費の削減に努めている。

(1) 業務内容

- ・調剤・鑑査業務
- ・病棟・外来・手術室の医薬品管理業務
- ・医薬品情報管理業務（医薬品情報の職員への周知）
- ・採用医薬品の整備
- ・後発医薬品への切り替え
- ・チーム医療への参加（ICT、医療安全）
- ・調剤システムの構築と整備
- ・災害等を念頭に置いた医薬品在庫の適正化

(2) 令和2年度の実績

調剤件数



(枚, Rp)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
院内処方箋枚数	778	647	747	755	656	701	746	707	762	755	746	1,222	9,222
院内処方剤数	2,528	2,156	2,283	2,684	2,201	2,743	2,361	2,364	2,449	2,416	2,564	3,509	30,258
院外処方箋枚数	576	543	626	622	599	619	638	577	671	581	561	710	7,323
院外処方発行率 (%)	89.4%	90.3%	90.5%	90.9%	88.3%	92.0%	91.0%	91.4%	89.2%	93.9%	92.9%	93.2%	91.1%

内訳

(枚, Rp)

外来院内処方箋枚数	68	58	66	62	79	54	63	54	81	38	43	52	718
外来院内注射処方箋枚数	40	25	28	40	39	31	26	36	41	43	35	61	445
入院処方箋枚数	455	378	407	443	357	473	428	431	435	431	438	536	5,212
入院注射処方箋枚数	215	186	246	210	181	143	229	186	205	243	230	573	2,847
外来院内処方箋剤数	121	108	111	105	121	90	111	87	145	89	75	120	1,283
外来院内注射処方箋剤数	43	25	31	41	52	37	39	42	56	48	35	61	510
入院処方箋剤数	2,122	1,803	1,876	2,317	1,827	2,464	1,969	2,046	2,017	2,027	2,224	2,755	25,447
入院注射処方箋剤数	242	220	265	221	201	152	242	189	231	252	230	573	3,018

4 臨床検査部門

臨床検査は検体検査と生理機能検査に大別される。当センターでは、処理可能な検査は当センターで行い（自家処理）、その他の検査は外部委託している。

(1) 検体検査

- ・尿一般検査：尿の検査・糞便の検査等を行う。
- ・血液一般検査：自動分析装置を使い、赤血球数、白血球数、血小板数等を測定する。
- ・生化学検査：自動分析装置を使い肝機能検査、腎機能検査等を測定する。
- ・血清検査：手術等で輸血が必要な場合の血液型（ABO型、Rh型）を調べ、交差適合試験を行う。
- ・薬物血中濃度検査：自動分析装置を使い抗てんかん薬等の血中濃度を測定する。
- ・血液ガス検査：自動分析装置を使い血液中の酸素濃度、二酸化炭素濃度、PH等を測定する。
- ・凝固検査：自動分析装置を使い、PT、APTT、Dダイマー等の凝固因子を測定する。
- ・簡易キット検査：簡易キットを使い（インフルエンザ A&B、A群β-溶血連鎖球菌、RSウイルス、hMPウイルス、咽頭アデノウイルス、便アデノウイルス、便ロタウイルス等、便ノロウイルス）を検査する。
- ・外部委託検査：細菌検査、病理検査、自家処理不可能な検査等を委託する。

(2) 令和2年度の実績

- ・検体検査件数

(件)

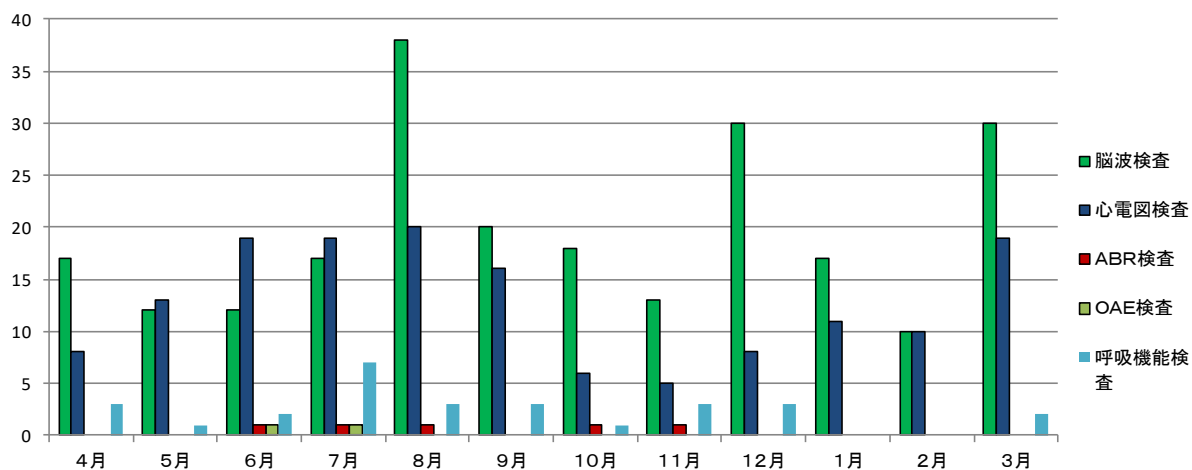
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
院内検査	尿一般検査	104	115	141	117	81	90	108	106	84	65	96	155	1,262
	血液一般検査	228	201	264	195	267	205	260	218	247	166	188	309	2,748
	生化学検査	1,601	1,528	2,023	1,457	1,828	1,537	1,919	1,617	1,827	1,267	1,439	2,301	20,344
	凝固検査	16	25	32	17	15	16	16	14	8	7	10	26	202
	血清検査	2	2	12	10	14	10	9	8	6	2	6	10	91
	薬物血中濃度検査	15	22	31	21	29	21	28	22	33	21	15	27	285
	簡易キット検査	3			2							3		8
	健康診断（尿検査）	33	7	5					15	4				64
	その他の検査	8	5	4	6	7	6	8	10	3	8	3	10	78
外注検査	68	120	169	126	134	134	134	108	130	123	92	179	1,517	
細菌検査	81	121	95	68	46	84	68	96	122	92	90	126	1,089	

(3) 生理機能検査

- ・脳波検査・心電図検査・ABR検査・OAE検査・呼吸機能検査
- ・筋電図検査（医師実施）・超音波検査（医師実施）

(4) 令和2年度の実績

- ・生理機能検査件数



(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳波検査	17	12	12	17	38	20	18	13	30	17	10	30	234
心電図検査	8	13	19	19	20	16	6	5	8	11	10	19	154
ABR検査			1	1	1			1	1				5
OAE検査			1	1									2
呼吸機能検査	3	1	2	7	3	3	1	3	3			2	28

5 放射線部門

放射線部門で行っている画像検査は、CT、MRI(オープンタイプ)、X線撮影、透視撮影、歯科撮影、術中透視撮影などである。依頼科は、小児科、精神科、整形外科、歯科、耳鼻咽喉科、眼科と多岐にわたり、検査部位や検査項目も広範囲になっている。対象疾患でもっとも多いものは小児神経疾患及び小児整形外科疾患である。

なお、導入している放射線部門システムは電子カルテシステムと連携し、画像は各診療科や病棟の高精細端末や電子カルテ端末に配信されて、精度の高い診断及びインフォームドコンセントの促進に活用されている。

(1) 令和2年度の事業計画

- ・質の高い放射線技術の提供（疾患、障害、発達に応じた画像検査を提供する。利用者の質問、相談に対し、そのニーズを的確に汲み取り、EBMに基づいたインフォームドコンセントを実施する。）
- ・CT、MRI等高度医療機器の効率的活用（他の医療機関と良好な連携を目指し、検査精度の向上を図る。標準化された各種の規格・運用指針に基づき、他の医療機関との連携強化に努める。）
- ・医療安全対策の推進（事故防止安全対策マニュアルをはじめ、感染防止対策マニュアルや医療機器安全管理マニュアルに基づいて業務を遂行する。）
- ・職員の資質の向上（最先端医療技術の成熟度に応じた医療水準を常に念頭に置いて技術の向上に努める。各種学会のガイドラインの導入を図り、確立された診療放射線技術を検証する。）

(2) 令和2年度の実績

- ・画像撮影件数実績

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MRI撮影	4	8	11	12	12	10	10	7	16	10	5	10	115
CT撮影	8	7	6	9	11	11	11	3	4	10	5	5	90
X線撮影	81	48	60	92	124	95	95	82	96	98	47	122	1,040
回診撮影	39	28	27	32	24	18	33	32	25	33	27	45	363
X線透視・撮影	6	4	4	4	9	2	7	4	6	3	2	5	56
術中透視・撮影	1		5	3	6	4	2	3	4		3	6	37
歯科撮影	3	2	2	1	4	6	3	2	5	2	7	6	43
歯科術中撮影													0
画像提供	5	9	8	13	7	12	17	7	4	6		18	106
画像取込	12	9	14	10	9	15	11	16	12	9	7	10	134

6 臨床心理部門

(1) 臨床心理査定

発達及び知能検査、人格検査、その他心理検査を用いて、個人の独自性や個別の特徴、問題点の所在を明らかにする。また、得られた所見に基づいて、育児や発達、就学や学習等に関する相談、助言を行っている。

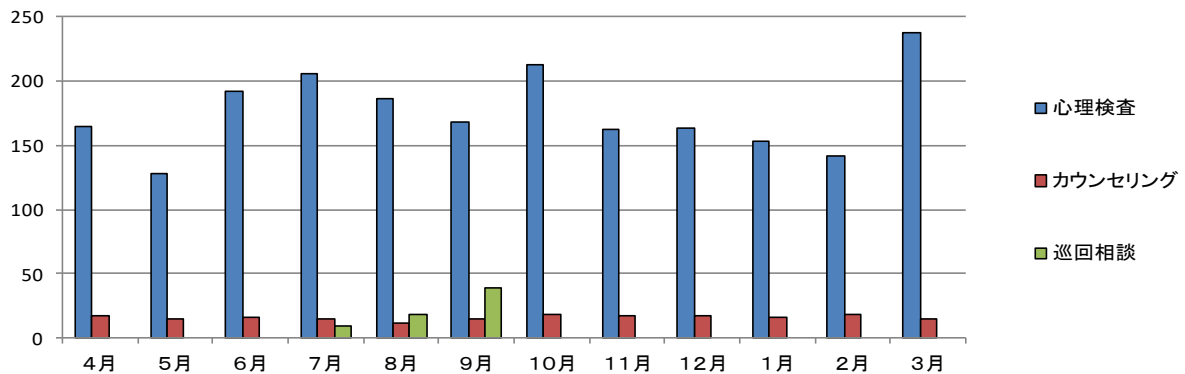
(2) 臨床心理面接（カウンセリング）

利用者の訴えに対して個人の価値観への尊重に基づいて関わり、これを取り扱う。また、利用者それぞれの特徴に応じて、遊戯療法や来談者中心療法、認知行動療法などの種々の心理療法をはじめとした臨床心理学的技法を用いて心理援助にあたっている。

(3) 臨床心理学的地域援助

個人のプライバシーを十分に守りながらも、同時にコミュニティ（家庭、保育園、幼稚園、学校など）全体を考慮した情報整理や環境調整を行っている。

(4) 令和2年度の実績



(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理検査	164	128	192	205	186	168	212	162	163	153	142	238	2,113
カウンセリング	17	15	16	15	12	15	19	17	17	16	19	15	193
巡回相談				9	18	39							66

検査内訳

(件)

心理検査 新規	21	35	37	22	27	27	43	31	27	20	32	20	342
心理検査 再来	143	93	155	183	159	141	169	131	136	133	110	218	1,771
カウンセリング 新規	1	1		1			2	2					7
カウンセリング 再来	16	14	16	14	12	15	17	15	17	16	19	15	186
巡回相談 新規				6	15	38							59
巡回相談 再来				3	3	1							7

判定書発行先

(枚)

児童相談所	16	12	21	18	16	18	22	22	17	24	17	23	226
その他						3	1	1					5

※H27年度より知能検査と人格検査をあわせて「心理検査」として報告する。H26年度までは知能検査に含まれていた「巡回相談」での検査件数をH27年度より「心理検査」と「巡回相談」にわけて報告する。

なお「巡回相談」とは療育支援事業のなかの在宅支援専門療育指導をさす。

7 栄養指導管理部門

医療棟（母子入院含む）、医療型障害児入所施設（ひばり病棟・杉の子病棟）、医療型児童発達支援センター、福祉型児童発達支援センター、生活介護事業所、短期入所の利用者に、給食を提供している。

対象者は乳幼児期から青年期頃までと幅広く、食事形態も多岐にわたっているため、個々の発達状況に合わせた食事区分や食事形態を設け対応している。また、食物アレルギー除去食については、医師の診断のもと除去する食品の種類・程度を把握し、看護師・保育士・管理栄養士の連携を密にして個別対応をしている。

（1）献立作成・実施について

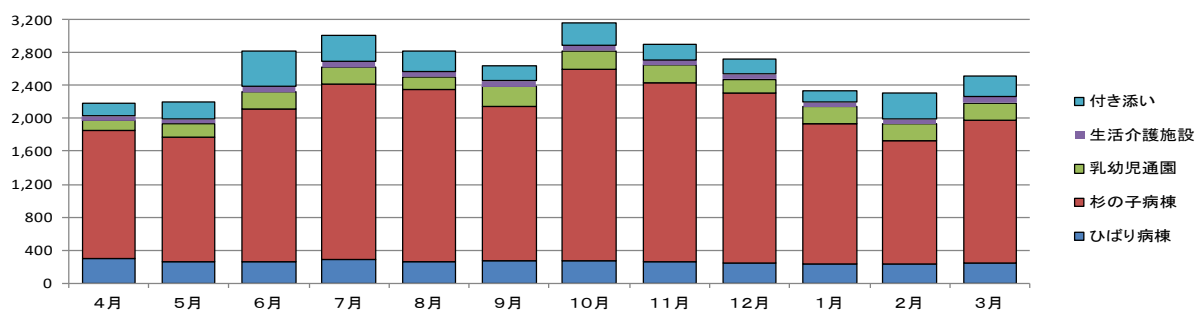
- ①素材を大切に味付けにする。
- ②季節感を盛り込む。
- ③各行事にあった献立を考える。
- ④盛り付け・配色などで変化をつけ「目で楽しむ食事」の提供。

（2）栄養指導について

- ①離乳食
- ②胃瘦ミキサー食
- ③ケトン食
- ④肥満
- ⑤幼児期の食生活（食教育）
- ⑥偏食

（3）令和2年度の実績

・棟別給食数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ひばり病棟	299	255	264	279	263	267	268	263	238	235	236	244	3,111
杉の子病棟	1,559	1,514	1,854	2,140	2,092	1,871	2,336	2,167	2,067	1,699	1,493	1,735	22,527
乳幼児通園	115	170	198	203	148	248	216	218	173	209	208	209	2,315
生活介護施設	58	47	78	75	69	68	71	63	65	51	51	77	773
付き添い	153	207	425	313	246	186	266	184	174	137	322	255	2,868
合計	2,184	2,193	2,819	3,010	2,818	2,640	3,157	2,895	2,717	2,331	2,310	2,520	31,594

※杉の子病棟（母子入院含む）

乳幼児通園・重心児者通園（昼食のみ提供）